

## —急性期治療病棟—

# 信頼していただける医療を提供しています

平成10年に精神科急性期治療病棟の認可を受けてから、12年が経過しました。急性期治療病棟に入院される患者様は、精神症状が著しく悪化し、その変化に、ご家族は対応が分からず途方にくれ、疲れ切った状態になられることも少なくありません。そんな患者様、ご家族に対して医療スタッフは、信頼される医療が推進できるよう日々取り組んでいます。

### ●精神科急性期治療病棟

精神科急性期治療病棟は、精神科における急性期の著しい病態の方に早期家庭復帰・社会復帰を目的として手厚い医療と看護を提供し、短期集中治療を行っています。



オープンカウンターのナースステーション

当院では、患者様の情報・問題点等について、医療チームが、リアルタイムに把握できるシステムで情報を共有化し、さらに、医師を中心とした看護師・薬剤師・臨床心理士・作業療法士・精神保健福祉士・管理栄養士等のチームカンファレンスを行い、一貫した医療を展開しています。また、ご家族との面談を多く持ち、ご家族も治療協力者としての役割を担っていただくようにしています。

### ●開放療法

当院は、昭和36年の開院以来、夜間を除いて病院内や病院外を自由に出入りできる開放療法を行っております。入院直後の精神症状が落ち着かない方や、不安や焦燥感の強い方を除いては、医師の指示により、自由に買い物や散歩をする治療環境が整えられ、職員と

の信頼関係と、地域のご協力とご理解を得て開放療法が実施できています。

急性期治療病棟も開放療法で運営しており、ナースステーションは、オープンカウンター方式を採用しています。開放療法は、離院等の事故発生リスクはありませんが、スタッフは受容的に接し、医師によるカウンセリング・看護師その他のコメディカルによる面談を頻繁に実施し、患者様との信頼関係を構築しています。入院初期より外出・外泊ができるよう独自のシステムを工夫して、社会との交流が損なわれないようにしています。

### ●医療提供

入院者の疾患の内容としては、約40%が統合失調症・妄想性障害、約30%が感情障害・抑うつ気分障害、残りの約30%がアルコール依存症・薬物による精神障害・器質性精神障害等、多様な精神疾患患となっています。また、年齢層も幅広く、思春期から老年期の方が療養されています。そのためケースカンファレンスには、医師

を中心として医療チームスタッフ全員が参加し、治療方針の確認・各職種間の動向や評価など行い、情報の共有化を図り対応しています。また、ご家族に病気を理解していただくために、医師との個別面談・当事者を交えた面談を積極的に行っています。それに加えて、家族会の勉強会にも参加をいただき、ご家族に治療協働者としての自覚と役割を担っていた

だき、良質な医療が提供できるよう、努力をしています。

### ●患者様の処遇

従来、精神科病棟は、処遇や所持品の制限等がありました。最近では、人権擁護・個人情報保護などの観点から、患者様・ご家族からの要望も多く、持ち込みたい所持品は、パソコン・携帯型

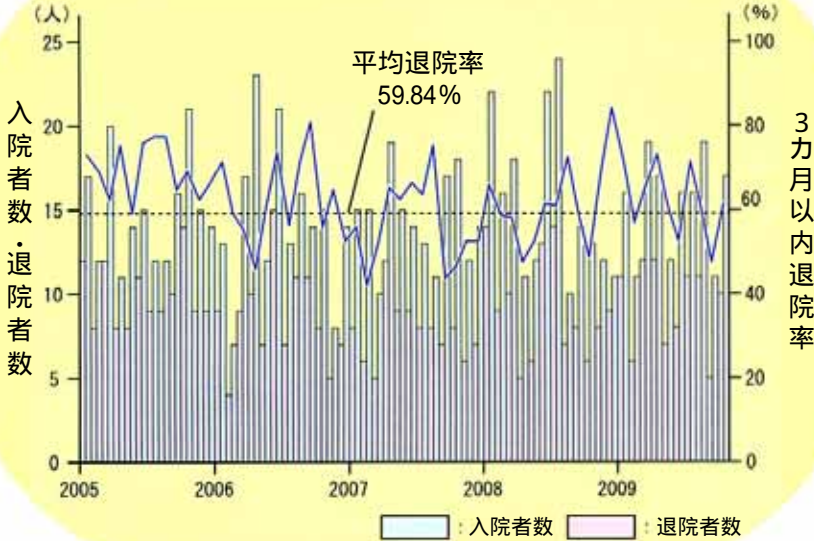
DVDプレーヤー等幅広くなってきました。特に携帯電話の使用は、ほとんどの方が望んでおられます。

治療環境を考えると、どこまで受け入れたら良いのか戸惑いはありますが、治療効果を考えた上で、医師やチーム・病院管理者との話し合いで決定しています。院内の携帯電話使用に関しては、平成19年からルールを決め実施しています。

### ●まとめ

急性期治療病棟の退院は、「治療の終わり」を意味するものではありません。継続的に医療を受けていただけよう、当院の外来通院、デイケアまたは地域のクリニック・共同作業所に橋渡しをする重要な役割があります。入院から社会復帰の過程、復帰後の支援を含め、全て「患者様第一」を考えての治療がスムーズに行われ、心身ともに回復されるよう、医療チームが一丸となって、日々惜しみない情熱と人としてのかかわりを持ち歩んでいます。

入院者数・退院者数と3カ月以内退院率



陽光がふんだんに差し込む談話室